

着実な水防態勢に向けた水防訓練等における取組について

1. はじめに

建設事務所においては、水防活動に備え、毎年水防訓練等を実施している。工事課で水防関係を所管する工務担当では、水防訓練等がより効果的に実施できるよう、担当内で、日頃から、見、聞き、経験してきたことをヒントに、知恵を絞り、様々な工夫を行った。本発表は、水防訓練等のうち、情報伝達訓練、水防連絡会、排水ポンプ車合同訓練における取組について報告する。

2. 水防訓練等における工夫

2.1 情報伝達訓練

水防活動時の情報伝達は、迅速かつ確実に行う必要がある。水防活動時に活用する情報は、情報の種類ごとに伝達システムと伝達機器があり、また、職員が情報伝達に携わる機会は水防態勢等に限定されているため、全ての職員が情報伝達に精通しているわけではない。このため、より迅速かつ確実に情報伝達できるよう、伝達方法の確認が簡単にできる工夫を行った。

これまで、情報を送信する際には「地域水防活動の手引き」(本)の中から伝達方法の確認を行っていたが、手引きから所の伝達システム部分を抜き出した「情報伝達早見表」(図-1)を作成し、手引きの中を探さずとも一目で伝達方法を

確認できるようにした。また、併せてFAX送信用紙の改良も行った。さらに、出水期前の課内研修を希望制から悉皆に変更し、コロナ禍でも多数が受講できるskypeによる研修を実施した。

当初作成の早見表は、情報名に追記する等、改良を続けており、今後も、訓練や水防態勢の対応状況に応じて情報伝達について工夫をしていく。

情報名		受信				送信(防災FAX)			市への伝達システム(参考)
名称	発表者	システム	伝達ルート	伝達手段	受令確認	八王子市 日野市	総合 防災部	受令確認	
情報1	☆☆	基本	☆☆ → △△ ⇒	システム	システム	○	—	電話 (防災)	基本 : ▽▽ → 市
		補助	▽▽ ⇒	FAX(防)	補助 : 南西建 → 市				
		—	—	—	【様式1】				
情報2	○○	基本	○○ → △△ ⇒	システム	システム	◎	○	電話 (防災) 市のみ	基本 : 南西建 → 市
		補助	□□ ⇒	FAX(防)	電話				補助 : ○○ → 市
		副システム	○○ ⇒	メール	—				副システム : ○○ → 市
情報3
			.						.
			.						.
.
			.						.
			.						.

図-1 「情報伝達早見表」のイメージ

2.2 水防連絡会

事務所では、水防計画の周知を図り、情報交換を行うため、管内水防管理団体(市)、京浜河川事務所、消防署等と水防連絡会を開催している。昨年度の書面開催から、本年度はWeb会議で開催することとしたが、関係機関により使用できるWeb会議デバイスが異なり、全ての機関が参加できるデバイスがないため、対面・Web併用方式の開催とした(写真-1)。

併用方式では、対面方式会議場における出席者と機器の配置、会議場発表音声の Web 上の音質確保、対面方式会議と Web 会議による 2 重の準備のため、予想外に苦勞した。

また、当所を含む 6 事務所の水防連絡会における京浜河川事務所、小河内貯水池管理事務所による講演については、これまで各所においてスライドを使い講演されていたが、本年度は当所が講演調整幹事であったことから、ナレーション付き PPT による講演を提案し、了解をいただき、本年度から動画による講演となった。これに伴い、両機関に対し、ZOOM の画面共有機能を活用して、PPT の機能についてリモートで技術支援を行った。

今回の併用方式の開催により、対面方式の出席者、Web 会議の参加者、講演者が多くなると、事務局の態勢や音声機器に工夫が必要なのことがわかった。今後、併用方式を採用する機会も想定されることから、更に併用方式について検討していく。



写真－1 水防連絡会（対面方式会議場）

2.3 排水ポンプ車合同訓練

消防署等との合同訓練では、河川から排水ポンプ車により中継水槽へ排水し、中継水槽から消防ポンプ車が吸水して放水する。川へ排水する所単独の訓練とは異なり、高さのある中継水槽へ排水するため、ホースの設営方法が課題であった。

このため、過去の訓練等の写真を基に、水槽高、補助器具、ホースの折れや人によるホース支持状況等について、担当内で議論を交わし、所の排水ポンプ車に装備しているぬかるみ用敷板、脚立、土のうを使用した斜路を構築してホースを設置してみることにした。実際の訓練では、ホースの折れも少なく、ホース支持も最小限で済み、安定して中継水槽へ排水ができた。（写真－2）



写真－2 中継水槽における排水ホースの設置状況

また、訓練では消防署職員に対し排水ポンプ車の操作体験も実施したが、消防署の訓練参加人数に対し体験可能な人数が限られてしまうことから、課内研修用も兼ねて、排水ポンプ車操作ビデオの作成を予定している。

3. おわりに

担当内の職員で喧々諤々議論をすることにより、水防訓練等における様々な工夫を行うことができた。職層、職歴の異なる職員と課題に取り組み、課題の解決や改善を進める中で、とても大切だと感じたことは、(1)多くの職員で知恵を絞る、(2)スタンス、立場を変えて見てみる、(3)日頃から多くの事柄に意識を向け、情報のキャッチを心掛けることである。

今回の取組の一つ一つは小さいかもしれないが、積み重ねることによって大きな効果へつながると考える。引き続き担当内で知恵を絞り、水防訓練等はもちろんのこと他の業務についても、一層の創意工夫に取り組んでいきたい。